

66
633

SERMON SERIES.

(I) THE LOVE OF GOD

Rev. J. C. Ambler.

明治廿八年四月
メソヂスト出版舎

講演集
神の愛

耶穌降生千八百九十五年

020333-000-6

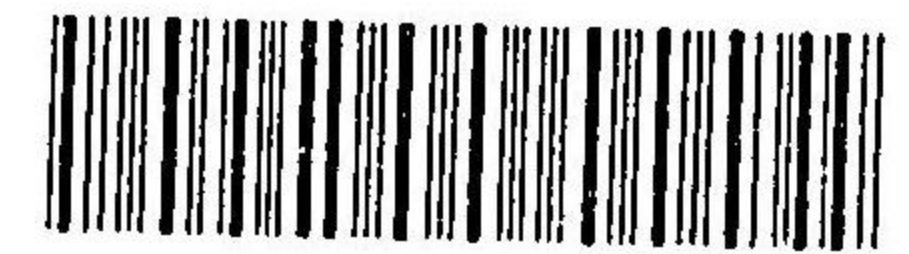
特52-608

神の愛

アンブラー/述

M28

ABI-0139



總説



此の五冊の小冊子は基督學に關する基督敎の要理の幾分
 此の書は基督敎の一般の事實に就ては感動する所あるも尙は基督敎に
 最終の決心をなすに至るに先ちて一層充分に研究する所あら
 るとす。君の爲めに出版するものなり。又信仰冷淡とありた
 る人々の信仰を確立し回復する爲め幾分の益あらんとは是れ著者の
 希望ありたるを記するに俗語を以てしたるは一般の人々に解し易から
 しめんとするに由る。希くは此の書を引續きて閱讀する人敬虔に充分
 に調査を遂げたる後終に彼の狐疑深きトマスと共に
 「我主よ我神よ」
 といひ得るは彼の感動を生せんことを。

第一

神之愛

此卷は神の子の世に降り給ひし道理と目的とを論述するものにして、豫め是れより以後の四冊を閲讀せられんとする思想家の心を開拓し置かんとするものあり議論の体裁序次に就ては余敢て新機軸ありといはず又此の問題の新説に關し敢て反論を試むるものにもあらざるなり本書は紙數に限りありて此の多端の問題を詳説するには自ら困難ありきされど少くとも以後の四冊に對する希望を興奮し嗜好を起すには充分ならんと是れ著者の希望をる所あり

神の愛

アンブラー述

約翰傳三章十六節にそれ神はその生たまへる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり此は凡て彼を信する者に亡ること無くして永生を受しめんが爲ありとありますが此言詞に據りてお話を致しませう昔猶太國の司人にニコデモといへる人あり此人が或日主イエスの許へ参りて其教のことにつきあなたは如何なるお方にて如何ある目的ありやと尋ねました抑此ニコデモといふ人は猶太人の中にて身分も高く學識も博く且其志想は他の猶太人と同じく救主のれ出を待て居りました情此ニコデモを初め其他猶太の人々の考に其救主の一朝此世へお降りに成たならば年來羅馬人が壓制にも忽ち打勝ことが出來て

舊時猶太の隆盛なりし時代よりも猶繁盛になるべしと思ひ設け且又主イエスが毎々驚くべきお話や不思議な御所爲など熱思して眞に久しく待れたる救主ありと考て居りました又エルサレムと云ふ都より或權勢ある人々を遣はしてマブテスマの約翰の性質と品行とを取調べさせましたが其使が歸り來りてサンヘドリムといふ猶太の宗教會議に復命を致すに當りニコデモの疑念が一層強くなりました元來ニコデモも其集會の議員でありまして其遣はされた人々の話を聞きましたがさて其人々の話は如何なることであるかといふにマブテスマの約翰といふ人の言はるゝやう我はキリストにあらずされど汝等が知らざる所の者一人汝等の中に立りと此の知らざる所の者と申すのは即主イエスキリストを指したのであります抑ニコデモの目的に主イエスが全く神様より送られたる証據物であ

ると正しく保証することが出来るからば其主イエスと共に戦争の始まる事に就て御相談を願ひ度き旨を述べました然るに主イエスキリストは大層智慧のあるお方なる故ニコデモに向て尤も上手にれ答をなさいましたをして其次手に段々ど誘導なされ終にイエス御自身の眞正の目的即人間の中には戦争を起す積りでないといふことを逐一お示しなされ加之御自分の天國といふ所へ行かんとするには人間の心の中なる有様を改めねばならぬといふことを詳に仰られました

この時主イエスキリストの御心がニコデモの心の底に能く貫き是迄自分の心に犯した罪の爲に天國へ行くべき望の絶たることを悲しみつゝ言あらはしぬ尤もニコデモは最初主イエスキリストの世をお救ひあさるゝ御目的に就て種々議論したく思ひ居りしが段々進んで自

分が尋ねることの關係に就て明に導れました。即聖書に書てある辭に依るに、ニコデモが答ていへるやう如何で此事あらんやと。諸兄弟姉妹たちの中に、ニコデモの如く御自分達の御利益の爲基督の道をお求めあさるゝならば、主イエスがニコデモに向て優しい憐れある。れ話をあされたれ辭を。れ聞せ申しませう。

主イエスのお話の聖書に書てある意味に據るに、人間が救はれたく思はゞ、先一番に眞誠の神の獨子を信すること、が肝要でござんます。抑救のことゝ、信仰のことゝを比較るに、決して別物ではありませぬ。丁度我々が食事する間にも、我々の身体を強めるが如く、少しも間斷なく、主イエスキリストを信するならば、直に神のれ救ひだの。お恵みだのを被りて、信仰は彌々益々堅固になります。

諸進んで約翰傳三章十四節十五節に至りますと、この言詞が書てあり

ます。曰く、モーセ野に蛇を擧し如く、人の子も擧らるべし。凡て之を信する者に亡ること無くして、永生を受しめんが爲なりと。そもこの言詞の意味は如何なる譯ぞといふに、太古猶太人が、原野に迷つて居りました時分、その人々が犯したる罪のために、神罰を受けて居りましたが、その罰は毒蛇とありて現はれ出で、其人々の内へ這入り酷く齧付きました。そこでモーセといふ人が、神様に祈り銅を以て、蛇の形を造り、これを棒の先へ掛け示したるが、彼毒蛇に噛れた猶太人は、其銅の蛇を見ると、忽ちその傷所が癒りました。その銅の蛇は、即神の功験であります。それと同じく我々も、主イエスキリストを信する時は、矢張其通りの救を被ることが確に出來、我々人間が、主イエスキリストを信するならば、其信仰は私共の救ひとなる道理であります。夫故に、多くの罪を犯したる人々も、主イエスキリストは、全世界の救主であるといふことを心に期

し心に信じ神の掟に従ふならば疑も亦く神様の免しと。永生の樂を
 被るは勿論でございます

夫より段々進んで左の如き慈愛と慰のお話を成さしました。曰く神は
 其の生給へる獨子を賜ふ程に世の人を愛み給へり。是は神を信する者
 に亡る事なくして、永命を受しめんが爲めなりと。このお詞に就て愛
 する兄弟姉妹達をはじめ、基督教の神様の性質に就て今日まで我々共
 の考へは如何でありましたらう。私共若し實際に聖書にかいてある
 事柄をその儘受ましたならば、その幸福は何程でありませうぞ。實に量
 り知られぬ事は勿論でございます。或人の話に、主イエスが此の世へ
 降られ成されて人間の罪に代りお死なされた時に、我々人間に向つて、
 深きお恵をお取次おされて下されたのだと申しました。又或る他の人
 の話に、主イエスが死なされた時、我々人間の犯した罪の代りに、神の

怒を御引受下されたと申しますが、夫故に世間の人は考違ひをして、聖
 書にかいてある基督教の神様は、恨み深くして和がざる短氣なお方と
 思ふとがあります。併我々人間が懼しい神罰を受けざる時は、人間と神
 様と決して和ぐことは出来ません。それだに依て、主イエスキリストは
 恰も人間の仲裁人の如くに、其の犯した罪の苦みをお引受下さるやう
 に成つた譯で、それに就て神様や贖主の務に就て、斯様なる言より聖書
 に書たことと全く違つて参つたのであります。抑聖書の中の或る部分
 と、又他の或る部分に書てあることを比較すれば、前の説は全く消滅し
 て仕舞ひます。夫ですから、主イエスキリストは此様に働き成さいま
 した間に、神様は天に存在する人間の父様であると仰せられ、又聖書に
 書てある神様と此の間違ひなる話とを比較すれば、其の差別は、丁度偶
 像教の懼しい鬼だの、又うの他木石にて造られた物と、基督教の慈悲お

る父。全能なる神の功驗とが目に見ゆるのと能く似て居ります。愛する諸君よ。諸君は今日ここに擇びし題意をよく御熟考下さるやうに願ひます。即ち神はその生たまへる獨子を賜ふ程に世の人を愛し給へりといふ言でございまして。これは神の獨子なる主イエスキリストの御言でございませう。

抑我等人間に對する神様の愛の教については、舊約全書の創世紀より新約全書の黙示録に至るまで、始終一轍に貫ひて居りまして、神様の眞誠なる御性質や、お目的を人間に悟らしむるため、色々様々な比喩を以て、示し下されました。その事のモーセお向つて神様が話しなされた御言にて、甚だ明瞭でございませう。即ち出埃及三十四章六節にエホバ即ち彼の前を過ぎて宣べたまはく、エホバ、エホバ、あはれみあり、恩恵あり、怒るとの遅く、恩恵と眞實の大なる神、恩恵を千代までも施し、惡と過

と罪とを赦すものとありませう。又創世紀六章六節に、ここに於てエホバ、地の上に人を造りし事を悔て心に憂ひたまへり、とあり。又詩七篇十一節に、神は正しきさば、人、日毎にいさよほりを起したまふ神あり、とありませう。この諸説を能く考へて、覽なさい。總て神様の愛の深い証據が能くお心かりになりませう。如何とあれば、神様は我々愚なる人間の心に、了解安い話を爲されんがため、初から人間の弱くして、力のない有様を、お考になりまして、斯様あるれ辭を、用ひおされた譯であります。約翰傳三章十六節に、神様の獨子イエスキリストが自ら此世へお降りおされました。たれ目的をいひあらはしてございませう。そのれ言は、即ち今日の題といたしたる、神はその生たまへる獨子を賜ふは、世の人に人を愛し給へり、と申すのでございませう。實に神學に依りて考ふるに、救の源は神の愛でございませう。舊約全書を能く調ふれば、人間の一番初の

祖先はアダムとエバといはれましたがこの人々が罪を犯せし罰によ
りて神様の前から追出されその後その罪即悪しき行や悪しき思ひが
人間の心の衷に遺傳いたしましたけれども神様は禮式や約束や預標
や証據や豫言などを以て人間の心を既に倒れたるより引戻し段々と
造主に近づかしめ救の道を得るやうになされ且主イエスキリストは
最初人間が罪を犯したころ直にお降りなされあいのも後の人々のた
めを深く慮りてのことわざいいます抑々舊約全書をよく調べますれ
ば分りまするが神様は時機の熟するを待ちたまひてその獨子を下し
たまひ又救主は名もなき賤しき下僕の形ちを取りてこの世に下りた
まひましたかく神の獨子イエスキリストは人間の形ちを以てこの世
へ御降世あされ自ら謙りて柔順にその務を完了せられ終に十字架に
死したまひました哥林多前書十章十一節に彼等が遇る此すべての事

は鑑となれり且これらの事を録されたるは末の世に遇る我儕を警む
る爲なりとありますされば自ら立てりと思ふものは倒れざる様に慎
むとが肝要であります又我々は舊約全書に書てある教を能玩味すれ
ば大層利益にあります加拉太書四章四節に曰く然れども期既に至る
に及びて神の子をつかはし給へり彼は女より生れ律法の下に生れ
たり是律法の下にあるものを贖ひ我儕をして子たるとを得せしめん
が爲なりと又腓立比書二章五節より九節までに曰く爾曹キリストイ
エスの意を以て意とすべし彼は神の体ちにて居りしかども自らその
神と匹くある所のことを棄難きことと意はず反て己を虚らし下僕の
貌を取りて人の如くあれり既に人の如き形狀にて現れ己を卑くし死
に至るまで順ひ十字架の死をさへ受くるに至れりと又主イエスは約
翰傳十四章九節に我を見し者は父を見しなりと仰せられ主イエスが

此世の爲にお働きなされた間唯恵ある神様の愛をのみお現はしになりまし。馬太傳十二章二十二節に曰く眞道をして勝どげしむるまでは傷める草を折ることなく畑れる麻を熄とちしと。這は主イエスが小なる信仰を育るの意味をいふのであります。又主イエスの弟子達の話に神は肉体となりて我儕の体に宿れり我儕その光榮を見るに誠に父の生給へる獨子の形狀にて眞誠に恩恵と眞實とにて填塞せりと。之によりて考ふれば主イエスのお話に依て天に居す我儕の父様は憐恤深い方であつて人間を何所までも愛し下さるゝことが分ります。或人の話に聖書を能調ふればキリストが死したまへるは神様を人間に愛させたまへる爲めにあらずして神様が人間を御愛し下さるゝからであると申しました。が實に主イエスの贖は神様の愛の結果の現はれたのでございませぬ。爰にこの説を証する爲その例証を聖書の中より

舉げせう。羅馬書五章八節に然どキリストは我儕のなや罪人たる時我儕の爲に死たまへり。神は之によりて其愛を彰し給ふと。又約翰第一書四章九節十節に神はその生給へる獨子を世に遣はし我儕をして彼に由て生を得しむ。是に於て神の愛われらに顯れたり。我儕神を愛するに非ず神われらを愛し我儕の爲に其子を遣して挽回の祭物とせり。是即愛なりとあります。此等の條を見ますと主イエスの贖は神様の怒を宥る爲に。此世へお降りになりました様に見へまして聖書の説と全く反對して居るやうに見えます。から更に他の道理を尋ねなければなりません。羅馬書三章二十五節二十六節に斯様あるとが書いてあります。曰く神はその血に依りてイエスを立て信するものゝ挽回の祭物とし給へり。そは神忍びて過越し方の罪をゆるやかにし給ひしかど。今その義を彰はさん爲即イエスを信する者を義とするとも尙ほみづから義

たらんが爲ありと抑神様の性質を考ふれば實に完全無欠にしてその造られた人間も矢張り真正や義や慈悲な姿がなくて叶はぬものでありまするが併し我々人間は毎日の生活と行ひによりこの必要なる律法を破りてその犯せる罪のために神様から罰を受けねばならないやうになりその罪の爲めに死すべきものとありましたこの人間が罪を犯した有様を明にお知らせ申す爲に今此喩を以てお話を致しませう。先某の社會の法律に向つて罪を犯したとを考てごらんおさい。その害を被つた人は慈悲深いなさけある人でございまして裁判所へ行き罪を犯したる人の爲めに憐みや思ひ遣りや赦免の事を申し出しても裁判官は逆も悪人の罪をゆるしません何故おれば裁判官はこの悪人が訴へ出たる人を害した計りでなく此國の法律を破りたるに依り勿論相當の罰を申し付ねばならぬといふ定めである故です。さすれば此

の罪人は人間の法律を破りましたから。赦なくもその法律に従ねばありませぬ。この喩をマアよく考へてごらんおさい。人間社會に於いて、誠に甚あき法律でさへも罪を犯せばその罰を受くるのが當然なるに。まして至善至正なる神様の完全なる法律を犯した人間の罪を。そのまゝ赦される筈はございませぬ。神様は罪を犯せる我々人間をお愛し下さつても。その全き御性質によつて完全なる義なる正しい点より人間の犯した罪を。その儘に御赦しなさることが出来ないのでございませぬ。左様いふ有様も或る書物を編輯せし人の説にも。恵ある神様が種々様々御工夫をなさつて。漸く人間の救を御とげなされたと申されました。今その御工夫を能く考へますると。神様が法律を誠である。と証據立をなされた計りでなく。その掟を破つた人間に對し。その罪を赦されて。且救はるゝといふことが能く分ります。即ち神様の御獨子

イエスキリストは我々人間の賤しき性質を御取りなされて、その曲れる世に生れたまひ、人間に代りて苦を御受けなされたのみならず、色々酷き試を御受けなされ、全く神様の掟に御従ひなされて、神様の法律の、なくてはならない道理を御あらはしなさいました。斯く人間の代りに、主イエスキリストが苦を御受けなされたらうへ、人間が神様の聖なる法律を犯したるにより、永久き罰を受くべきことを御知らせになりました。然るに主イエスキリストがこの世へ下りなされしより七百年計り以前にイザヤといふ豫言者ありて、主は神様の法律を正しいと定め、人間の永久き罰を救ふことにつき、喜ぶことを豫言せられた。以賽亞書四十五章二十一節二十二節に、汝等その道理を持ち來りて述べ、又共に計れど、この言を誰か古より示したりや、誰か昔しより告げたりしや。ろの我エホバならずや、我の外に神あることなし。我は義を行ひ、救を施

す神にして、我の外に神あることなし。地の果なる諸の人よ、汝等我を仰ぎ望め、さらば救はれん。我は神にして、我の外に神なければなりとあります。人間は神様の完全なる御性質に向つて、實に罪を犯しましたるより、恵みある神様は、全くこの世をお救ひなされる爲に、ご工夫なされたることにて、そのご工夫は、即ち神様の愛と義との二つが結合して現れたものでござります。そこで又主イエスの贖を能考ふれば、即ち人間に向つて神様の過分ある愛を施されたる源であることが譯ります。抑神様は能はざる所なき此の世の造主であり、交して總て造られたるものと君主であり、又主から神様に於ては、人間から受くる愛には、別段必用もありません。且又人間が神様に背くことを、少しも懼るゝやうなことはなく、又人間より稱賛を受くることを、神様に於て望まらるゝことはござりません。去れども、なくてはならない必用なる掟の破れたのは、其

まゝにしてその生み給へる獨子に肉体を受させてこの世へ降らしめ。その獨子は義ある掟を成就なし。人間の爲に苦を受けて。死なされし。した。希伯來書二章十六節にこの詞が書てあります。曰く。實に天の使等。を助けず。アブラハムの子孫を助く。この故に神に屬する事に就て。矜恤と忠義ある祭司の長とありて。民の罪を贖はんが爲に。諸事に於て。兄弟の如くなるは宜あり。そは彼自ら誘はれて。艱難を受たれば。誘はるる者を。助得るありと。又聖保羅は羅馬書六章二十三節にこの詞を書ました。曰く。罪の價は死なり。神の賜は。我儕の主イエスキリストに於て。賜はる永生ありと。又全書十一章三十三節に。わゝ神の智と識の富は深きかな。其法度は測り難く。其踪跡は索ね難し。孰か主の心を知り。孰か彼と共に議ること。をせしや。孰か先彼に施へて。其報を受けんや。そは萬物は彼より出彼に倚り。彼に歸ればなり。願くは世々榮神にわれアーンと。ありま

す。そは主イエスキリストが此世の人間を救ひおさるが爲に。お降りおされしことは。如何ある譯であるかと尋ねるに。前にも擧ぐる如く。全く神様の愛より出でたるのであります。假令は。或人が裁判所に來まして。罪人に面會して云へるや。此人は人間の巨細の約束を破りましたも。又私の感念の早い性質を辱めまして。又私の名譽を汚しまして。その國の正しい法律と。この人の罪と。和らぐ爲に。その咎を贖はねばなりません。然るに私の生きたる獨子は。誠に清淨にして。一点のわしきこともなく。穢れたることもなく。迎も罪人など。比較的の物ではありません。けれどもこの罪を犯した罪人を大層憐恤て。その代りに自ら義なる正しい法律の制裁を。永く引請ることを約束致し。またその人の代りにこの裁判所にて定められた刑罰をも。引請る約束を致しませうと申し述べたや。ふあものであります。聖保羅は。主イエスキリストの優れた

る愛を考へて。以弗所の書三章十七節み掲げて曰く。キリストをして。信
 仰ふ由て。爾曹の心に居らしめ。又曹爾をして愛に根ざし。愛を基として。
 諸の聖徒と偕に。測るべからざる。キリストの愛を知り。うの淵さ。長さ。深
 さ。高さを識らしめ。又すべて神に満るものを。爾曹に満しめ給はんこと
 ありと。又聖保羅が他の所に於て。最も心の頑固ある罪人でありても。そ
 の罪を悔改むれば。主イエスキリストの救の力を受けることが出来る
 と申されました。即羅馬書八章三十二節以下に己の子を惜まらずして。我
 儕衆の爲に。之を付せる者は。豈彼に併て。刀物をも。我儕に賜ざらんや。神
 の選たる者を認へんものは。誰ぞや。義とする神なる乎。罪を定むる者は
 誰ぞや。死して復よみかへり神の右に在りて。我儕の爲にとりなし給ふ
 キリストなる乎と。書てあります。故に今日の題としたる神は。其獨子を
 賜ふは。世の人に愛したまへりといふ。その御言は。即ちその獨子御

自身の口より出まして。その御言によりて。我々は。大に力と慰とを得る
 のでございませす。さればキリストの贖を信じて。神の前に義とせらるる
 もの。のみ。救の道に入ることが出来るのでございませす
 總て信仰のない人は。獨りニコデモのとからず。この話しをきくと。大層
 疑念を起すであります。が。斯様なる人々の心に。神の獨子が。どうして
 總ての人の罪を贖ふことが出来るか。又人は。罪のため。に。どうして
 永久罰を受けねばなりませんか。或は。又キリストが。神の獨子あるとい
 ふ証據は何處にあるかな。といふ。質問を起すであります。が。併し。左
 様なることのみ。思つて居る人。たちは。徒眼前。この世の計畫をするのみ
 に。暇を費しまして。終に滅されてしまひます。去るにても。愛する兄弟姉
 妹達。よ。些も。横道を願はずして。一筋に。信仰の。大道を進まれんと。を。ね。勸め
 申します。譬て申さば。醫學を知らない人。が。醫者の。巧拙を知らうとす

るには他人が服用せし薬の効能をその病氣の結果に依りて決めねば
 なりますまい。人々大抵は皆生理學や化學等を知りませんが、醫者に
 治療せられてその薬を服用致します。若もその人々が一々醫者の薬の
 分析が分らぬとして上手な醫者の薬を服用することを拒みましたから、
 之を評して誠に疑ひ深ひ大層馬鹿な人だと申すでありませう。總て學
 術の説を調べますれば逆皆説き明すことは出来ません。故に先臆説よ
 り始めて漸く純粹に進まねはなりません。況して主イエスキリストの
 贖のとは神様より與へられたるものにて不完全なる我々人間が之を
 分析して悉く理解する事が出来ませんが、何の躊躇とがありませう
 ぞ。若しも金を借りたものが紙幣の珍しい摸様が分らないといふので、
 其紙幣を出して借金を償ふとをしあかつたならば、頗る間違つた話で
 ございませう。然れども神自ら保証して人間の救主と定められたるキ

リストを信ずることが出来ずして永遠に滅亡に陥る人は一層愚かな
 人でございませう。願くは今日申し演べました話を皆よく味つて主イ
 エスキリストへ出なさい。提多三章四節より六節までに左の言が書
 てございます。曰く然れど我儕の救主なる神の慈と人を愛し給ふ愛の
 顯れし時かれ我儕が行ひし所の義に功に由す。唯その矜恤に循ひ重生
 の洗と聖靈に由て新にする事を以て我儕を救へりと實に私共人間
 は何人でも神様の聖なる法律を破つて居ります故。永命の罰を受ね
 ばなりません。それ故に人々が罪を悔改めず、神様に向つて一旦背き
 し有様を猶續けて改めざる時は據さく未來の後には不信仰の罰即永
 命の苦を受けねばありません。去りながら迷ひたる人々も主イエス
 キリストの贖に依りて神様に親みするならば其信仰を義とせらる
 るとが出来ます。或人の話に只管に望の絶果たる安心の出来がたき人

々は殊に主イエスの救ひに依りて有難い意味を覺るとが出来ると申
 されました。が眞にその通りでございませぬ。又主イエスキリストの贖に
 依りて天國へ行かれた人計りがその救ひに由りて救ひ上げられた樂
 が能く分ります。夫故我儕人間の爲に殊更神様が其生給へる獨子をこ
 の世へ下しなされ。その獨子が人間の代りに苦んで死なさいまし
 たので。それは約翰傳三章十六節の終りに書てある言の意味を能く考へ
 れば神様の愛と憐れみの爲に亡すといふ事が一緒に分ります。これは
 未來の命を得れば限りなき最も優りたる樂しみとと。その命を失へ
 ば限りなき苦を受けねばならぬといふとが直に分るやうに書てあ
 るのであります。さらば何に依つて然るやといふに。その結果は唯信仰
 すると信仰せざるとの二つに依ることでありませぬ。そしてこの言は限
 りなき滅亡と限りなき救と二つの思ひを一言に並べてあるのであり

まして。この言を分解すれば。信する人のことと不信仰の人とに分れて
 居ります。嗚呼愛する兄弟姉妹達よ。我々人間がこの世に居ります。間
 の區別の如何を早くご自身にて。隨意にお擇びなさるとが必用で
 ござります。只々この世に居る間信する人々と。信せざる人々とが何れも
 この世の命のあとで救はれる人となる。救はれない入とある。二つ
 に分るのみであります。そふいふ有様でありますから。皆様はこの救
 主をお信じなさいませぬか。但しは我儘な心を持って。この罪を犯し。この有
 難い救主を棄て。永遠に死の裁判を望みませぬか。何れを擇んで
 お取りになりますか。
 終りに望んで。更に一言申し述べます。主イエスキリストを信せざる人
 々は。天の裁判所に於て。永命の罰を受ねばなりません。今にして
 早くこの恵みなる救主の方へ逃れて。出なさい。心を開いて。聖靈の恵

みを受くるのが大切でございます抑々神様は全能にましくしてこの
 世を瞬く間に滅すことをも得たまふと雖も、憐恵によりて我々をもが
 生きながらへて居ることを得るのでございます神様は人の良心を喚
 起し聖霊を下して我々を御招きなさいます又聖書によりて我々を教
 へ牧師を遣はして我々を導きたまひ、獨子キリストは我々の前に救ひ
 を垂れたまひ我々を勵ましたまひて主に歸することを得させたまひ
 ます。さるにても主キリストは此世に於て實に人間唯一の慰主であ
 います。人もし神様を信せずば此世に全く望みを失ふでございませう。
 望みなき人は世に不幸なものではございませぬ。今日擇びました題は
 よく人の知る所でございするが實に福音の大切なるものでござい
 ます。ゆへ皆様はよく考へて限りなき生命を御受けさるゝやう。御願
 ひいたします。生命を得るか死に陥るか。二つの中の一つにあるので

さいます。哥林多後書五章二十一節に是故に我儕召されてキリストの
 使者となれり。即ち神我儕に託なんぢらを勧めたまふが如し。我儕キリ
 ストに代りて爾曹が神に和がんことを爾曹に求ふ。神罪を識ざるもの
 を我儕の代りに罪人となせり。是我儕をして彼に在りて神の義となる、
 ことを得せしめん爲なりと記してございます。

明治二十八年四月廿五日印刷
明治二十八年四月廿八日發行

編輯者

本 多 庸 一

東京府下南豐島郡澁谷村
一番地青山學院内

印刷者 小 方 仙 之 助

東京市麴町區有樂町三丁目
二番地

發行所 ヌソヂヌト出版舎

東京市京橋區銀座三丁目
八番地

印刷所 青山學院實業部

東京府下南豐島郡澁谷村
一番地

此書係由... 刊印... 凡欲購者... 請向... 函購... 每部... 元... 郵費... 另加... 凡欲購者... 請向... 函購... 每部... 元... 郵費... 另加... 凡欲購者... 請向... 函購... 每部... 元... 郵費... 另加...